

## 目次

巻頭言	1
教室人事	2
教室員のひとこと	3
診療の集計	
1. 外来および入院	6
2. 手術	6
研究業績	
1. 論文発表	8
2. 学会・研究会への参加	10
3. 研究助成	16
4. 学位	17
教育関連の活動	
1. 学生実習	18
2. 講演・講義	18
3. セミナーの開催	18
4. 小児外科・病理カンファレンス	19
5. 抄読会	20
その他	21
編集後記	21

## 巻頭言：「獨協医科大学越谷病院小児外科のあゆみ」の発刊に際して

獨協医科大学越谷病院

小児外科教授 池田 均



医学の進歩とは俗にしばしば用いられる常套句だが、果たして本当に進歩しているのかと言うと、必ずしもそうでない場合も結構あるようだ。それは進歩と言うよりむしろ変化であったり、時に流行であったりする。例えばがんを対象とした外科学の分野では80年代に拡大手術による広範囲切除が多くの領域で全盛であったが、90年代に入っては様々な領域で低侵襲手術による縮小手術が唱えられるようになったのは周知のとおりである。もちろん多数例の臨床経験と治療成績を踏まえた治療内容の変化であるが、すべての場合において新たな治療法がそれ以前の治療法よりも成績がよいとのエビデンスをともなった変化であるという意味での進歩とは限らないということは理解に容易いであろう。

私はよく外科を志したばかりの人に「外科はアップで始まりアップで終わる」という一節(これ自体、私自身が先輩外科医より教えられた)を伝え、外科医になって最初に手術を任される急性虫垂炎もその診断は時に難しく適応の判断を誤ることがあり、しかも手術自体の難易度は症例により千差万別で、一旦合併症がおきればその的確な診断と迅速な対処を要求されるため、豊富な経験と柔軟な応用力が要求される決して馬鹿にはいけない疾患であると諭すことがある。この急性虫垂炎の治療もその内容が医学あるいは外科学の進歩・変遷とともに変化してきたことは余りにも有名である。すなわち、1900年代初頭は内科的治療が主流であり(その名残が虫垂炎を“ちらす”という言葉にある)、1930年代に至って現在のように虫垂切除術が急性期に積極的に行われるようになった(日本外科学会100年誌、2000)。現在、当科では急性虫垂炎を疑う患児を最初に診た医師は腹部超音波検査を行い、それでも確診が得られない場合は造影CT検査を行うことをルーチンとしており、また一旦虫垂炎と診断がついたら腹腔鏡下虫垂切除術を行うことを原則としている。これらの治療方針は一般に80%程度といわれる虫垂炎の正診率をさらに高め不要な手術を避けると同時に、手術が必要な症例では残る創痕を小さくしようとする努力であると信じているが、先のいわゆる医学の進歩の類であるとの誇りの対象ともなりかねない。

私たちの行う治療が真に進歩の名に値するものであるか否か、これは私たちが行っていることの科学的検証を常に行い、その結果を世に公表し批判の対象とすることによりはじめて回答が得られるものである。その意味でこの小冊子を発行し、わが教室のあゆみのあとを明らかにすることは極めて重要なことであろう。

## 教室人事

2000年4月1日、池田 均が長島金二名誉教授の後任として赴任。同5月31日、土屋博之助教授が退職し、また7月31日、根本貴史助手が退職した。一方、7月1日付をもって石丸由紀助手が学内講師に昇任し、8月以降は池田、石丸の体制で教室を維持した。この間、研修医の藤野順子君、湊進太郎君が交代で小児外科と他科の研修をこなし、また2000年10月1日から12月31日まで小児科研修医の土屋貴義君を、2001年1月1日から3月31日まで同西田 薫君を小児外科の研修に迎えた。

2000年10月1日、群馬県立小児医療センター形成外科部長浜島昭人先生を非常勤講師としてお迎えし、小児外科外来に形成外科外来を開設し診療と教育の一部を担っていただくこととした。

2001年4月1日、東京大学小児外科より内田広夫君が講師として、また群馬大学第一外科から山本英輝君(学内助手採用は5月1日)がスタッフに加わり、さらに5月1日付で藤野君が研修期間を終了し学内助手に採用になった(湊君は研修終了とともに東京医科大学外科学第三講座に移動)。したがって5月から小児外科チームは池田、内田、石丸、藤野、山本の5人で診療、教育、研究の体制作りを進めることとなった。また、10月1日から社会保険船橋中央病院形成外科部長蓮見俊彰先生に非常勤講師として形成外科の診療、教育に加わっていただいている。しかしながら2001年度は小児科研修医希望者が不在で、研修医採用が今後の小児外科教室作りのための大きな課題として残った。



2002.3.5 病院前



2001.12.22 外来忘年会

## 教室員のひとこと

「EBM と What s New!」

内田広夫

早いもので越谷病院にお世話になって1年が過ぎようとしています。この1年間を振り返って自分の中で何が変化しているか、また何を変えなくてはいけないのか、日々考えてきました。現在医療を取り巻く環境はかなり厳しいものとなってきています。理念のない医療制度の改革は私たちにとってもまた、医療を受ける側にとっても現状を改善する方向を模索しているとは思えません。そもそも理念、理想に沿って改革は行われるべきですが、今の改革にはその向かうべき理想が全く示されず、ただ単に国庫に占める医療費の削減のみが命題となっています。しかし日本において医療費支出がGDPに占める割合は、先進諸国の中で英国について2番目に低いのが現状です。現在最下位である英国は多くの医療問題に直面し、それらを改善するために複数年計画で医療費を上乗せしており、まもなく日本が最下位となることが確実となりました。このように世界とは全く違う流れの中で蠢く日本の医療のなかで、今後どのように私たちは進まなければならないのでしょうか。

現在の医療ではEvidence Based Medicine (EBM)が重要視されており、今までの系統だった解釈をより論理的に、診断と治療に役立てる試みが行われています。しかし、一方で今までの枠では対処できなかったものに対して、またよりよい結果を求めて新しいこと(What s New)を進めて行く必要もあります。この相反する事柄をもっとも効率よく進めるには、道しるべが必要と思われませんが、現状では、自らの理念、理想がもっとも重要な道しるべとなると考えられます。一方でその理念はEvidenceに基づいたものである必要がありますが、その理念のcheckは誰が行うのでしょうか。重大な局面は個々人の力量に任されているため、我々の責任は非常に大きく、システムとしてそれを補うものはないのが現状です。すなわち、医療の現場は医療従事者が果てしない多くの努力を惜しみなく払うことで初めて成り立つものであるといえます。もしこの努力をやめてしまえば、大混乱が起きることになるでしょう。私は医者として一人前になる、すなわち目の前の人をより多く、上手に助けたいと思い努力をしてきました。多くの人がこのような努力に支えられ日本の医療は進められてきたと思えます。これを本当に正しい方向に今後進めるためには、周りにはいる多くの理想、理念を持っている方々と話し合い、意見をぶつけ切磋琢磨することが重要だと思えます。今後も迷走を続ける日本の医療体制に惑わされることなく、多くの理念に守られたすばらしい医療を提供するために多くの先生方とパラメディカルの方と協力して臨床を進めたいと思っております。

それでも、自分は本当にEBMとWhat s Newをバランスよく使い分けることができるか

不安になります。今の私はこういった不安を胸に抱くことも大切なことだと思えるようになって来ました。自分の理念を絶えず自ら、また他人から check して頂き、常に疑問を持ちながら物事に関わることがこれからの自分の医療の基本であるような気がします。このような悩みを抱えながら EBM とともに What's New に挑戦し、診療と研究に関わっていきたいと考えております。

## 「この二年間を振りかえって」

石丸由紀

平成 12 年 4 月に、長島前教授にかわり池田均教授がこの獨協医科大学越谷病院小児外科に赴任されました。助教授と講師はすでに退職し、その時点でスタッフは助手 2 名、研修医 2 名、その助手も 7 月いっぱい退職しました。外来や手術も従来通り行わなければならず、また池田教授の入院などもあり、前途多難な体制でのスタートと思われました。私は学内講師となり、医局運営や委員会、対外交渉や BSL の世話など、今までほとんどやったことのない仕事をやることになりました。とはいうものの、悪いことばかりではなく、大きい手術の経験件数が増え、また池田教授が始めた小児外科・周産期外科セミナーなどでいろいろ勉強をする機会もできました。

平成 13 年 4 月から研修医 1 名が退職しましたが、講師 1 名と助手 1 名が新たに入局し、もう一人の研修医は助手となって、教室員は総勢 5 名となりました。実験も始めたのでまだ忙しいですが、家族にかかる時間も多少増えました。現在の私の目標は学位の取得です。

## 「これから」

藤野順子

始めに職場環境に目をやると、2000 年 4 月から 2002 年 3 月までの 2 年間で環境がめまぐるしく変わった。3 年前、1999 年 5 月に前教授の長島先生のもとで働き始めたときには予想もしていなかった状況の変化に、最初はなかなか適応できなかったのを、今この文章を書いていて思い出した。ただ、私は研修医で、とりあえずバタバタと身体だけ使って働いていれば良かったからそれほど心労があったわけではない。それに比して池田先生と石丸先生は大変な思いをされていたことだろう。このような状況が一転したのは、昨年 4 月。内田先生と山本先生という真摯な方たちを迎え、医局としても落ち着きを取り戻すことができた。

この業績集に関係のある話になるが、人手が少なかった時にも、池田先生、石丸先生とも、忙しさ故に学会参加を見合わせるようにとおっしゃったことはなかった。学会に参加

し何か得られればそれで良いと言われ、私は非常に恵まれた環境にいるのだと実感していた。ただ、私事だが、発表となると抄録の締め切りの随分前から気が乗らなくていまだに困っている。というのも、抄録にせよスライド作成にせよ、着手するのが常に1日の猶予も許さないほど締め切り間近なので、それがストレスの原因になるからなのだ。

私が、今回の業績集の少々の余白を埋められることができたのは池田教授を始めとする先生方の多大なる叱咤激励のおかげであると感謝している。これからも業績集に名を連ねられるよう努力をしていきたいと思っている。

## 「修行」

### 山本英輝

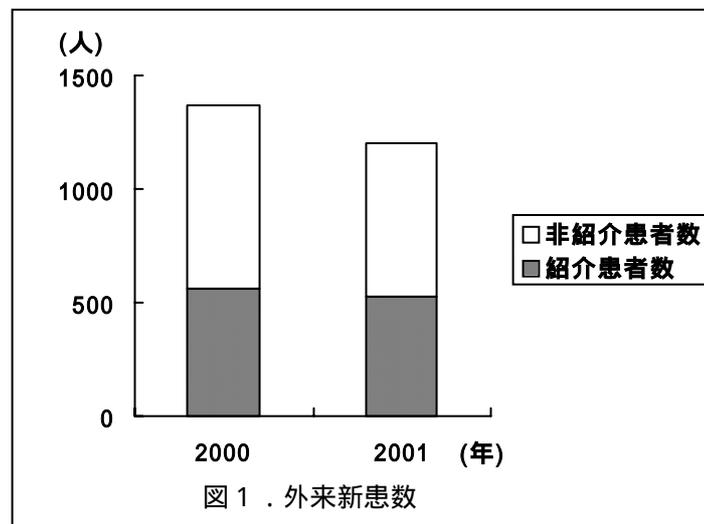
本病院には昨年4月より勤務しておりますが、早いものでもうすぐ1年が経過しようとしております。もともと私は群馬大学第一外科の医局員であり、本来3年目であると麻酔・ICUで研修するのが一般的なのですが、1年目より小児外科に関心があったため、「池田教授のもとで小児外科を修行してくるよう」と本病院に派遣されてきました。研修医時代は、1年目は群馬大学、2年目は群馬の山奥にある原町赤十字病院という田舎の病院で成人の外科を研修しておりました。特に2年目の病院は高齢な方(80歳前後)が多く、また当然のことながら悪性腫瘍がその多くを占めておりました。そのためか小児外科というと年齢のギャップが激しく、また疾患も全く違うため、来た当初はとにかくわけのわからない日々が続きましたが、約1年経ってみて最近ようやくなれてきた感があります。実際にはまだ経験したことのない小児外科疾患もありますが、今経験できる症例を大切に自分の糧にできればと考えております。

私は生まれも育ちも群馬なので、将来的には群馬で小児外科に携わりたいと考えております。埼玉は群馬にくらべ、小児外科を扱う病院が多いようですが、群馬は2ヶ所しかありません。これからは少子化の時代を迎えますが、小児外科はいつの時代にも絶対に必要な科であると思いますので、ここで経験したことを生かして、将来群馬の小児外科診療に貢献できればと考えております。私にとってはまだまだ先の話ではありますが、そのためにもこの病院で経験できることを大切に、これからも日々の診療にあたりたいと考えております。自分にとっては毎日が修行の日々ではありますが、この修行が少しでも越谷や近隣の小児医療の充実につながれば幸いです。

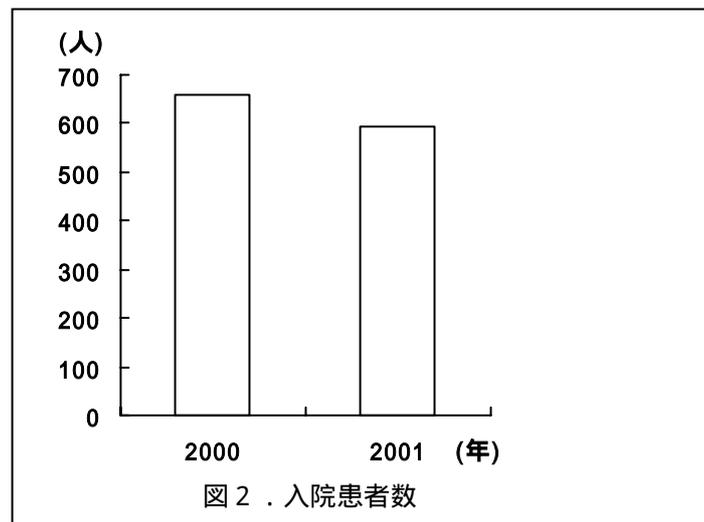
## 診療の集計

### 1. 外来および入院

2000年の外来延べ患者数は6719名、うち新患数は1365名でその紹介率は41.4%であった。また2001年の外来延べ患者数は5181名、新患数は1201名で、紹介率は44.0%であった(図1)。

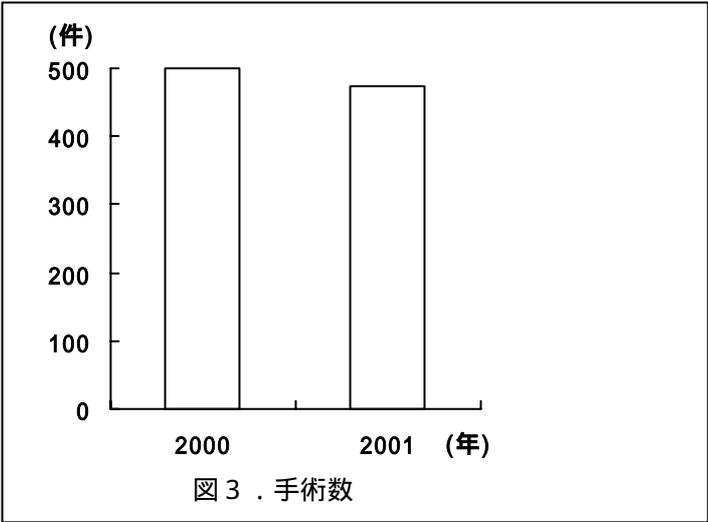


一方、2000年の入院患者数は658名、うち新生児入院数14名で、2001年の入院患者数は595名、新生児入院数は11名であった(図2)。



### 2. 手術

2000年の手術数は499件、うち新生児手術数は9件で、2001年の手術数は473件、新生児手術数は6件であった(図3)。



## 研究業績

### 1. 論文発表

#### 「原著」

- 1) Ikeda H, Tsuchida Y, Wu J, Suzuki N, Kuroiwa M, Choi SH, Morikawa A: Antitumor effects of fotemustine and busulfan against a human neuroblastoma xenograft. *Oncol Rep* 7:1265-1268,2000.
- 2) Maruyama K, Ikeda H, Koizumi T, Tsuchida Y, Tanimura M, Nishida H, Takahashi N, Fujimura M, Tokunaga Y: Case-control study of perinatal factors and hepatoblastoma in children with an extremely low birth weight. *Paediatr Int* 42:492-498,2000.
- 3) Ikeda H, Suzuki N, Takahashi A, Kuroiwa M, Sakai M, Tsuchida Y: Risk of contralateral manifestation in children with unilateral inguinal hernia: Should hernia in children be treated contralaterally? *J Pediatr Surg* 35:1746-1748,2000.
- 4) 藤野順子、長島金二、土屋博之、大橋 忍、石丸由紀、根本貴史、湊進太郎：小児熱傷 243 例の検討。 *埼玉県医学会雑誌* 35:539-541, 2000.
- 5) Kuroiwa M, Suzuki N, Hatakeyama S, Takahashi A, Ikeda H, Sakai M, Tsuchida Y. Magnetic resonance angiography of portal collateral pathways after hepatic portoenterostomy in biliary atresia: comparisons with endoscopic findings. *J Pediatr Surg* 36:1012-1016,2001.
- 6) Kuroiwa M, Ikeda H, Hongo T, Tsuchida Y, Hirato J, Kaneko Y, Suzuki N, Obana K, Makino S. Effects of recombinant human endostatin on a human neuroblastoma xenograft. *Int J Mol Med* 8:391-396,2001.
- 7) Ikeda H, Hirato J, Suzuki N, Kuroiwa M, Maruyama K, Tsuchida Y. Detection of hepatic oxidative DNA damage in patients with hepatoblastoma and children with non-neoplastic disease. *Med Pediatr Oncol* 37:505-510,2001.
- 8) Uchida H, Tahara K, Takizawa T, Inose K, Yashiro T, Hashizume K, Ikeda H, Takahashi M, Kobayashi E. Experimental small bowel transplantation using a newborn intestine in rats: IV. Effect of cold preservation on graft neovascularization. *J Pediatr Surg* 36:1805-1810,2001.
- 9) Takahashi A, Suzuki N, Ikeda H, Kuroiwa M, Tomomasa T, Tsuchida Y, Kuwano H. Results of bowel plication in addition to primary anastomosis in patients with jejunal atresia. *J Pediatr Surg* 36:1752-1756,2001.
- 10) Sakuma Y, Uchida H, Nagai H, Kobayashi E. High-dose tacrolimus and lengthy survival of the combined rat pancreas/spleen graft in a high-responder combination. *Transpl Immunol* 9:37-42,2001.
- 11) Tomizawa N, Uchida H, Xiu DR, To H, Fujimura A, Kobayashi E. Chronopharmacology of oral prednisolone in rats. *J Med*. 32:135-151,2001.
- 12) Hakamata Y, Tahara K, Uchida H, Sakuma Y, Nakamura M, Kume A, Murakami T, Takahashi M, Takahashi R, Hirabayashi M, Ueda M, Miyoshi I, Kasai N, Kobayashi E. Green fluorescent

protein-transgenic rat: a tool for organ transplantation research. *Biochem Biophys Res Commun.* 286:779-785,2001.

- 13) Xiu RD, Hishikawa S, Sato M, Nagai H, Uchida H, Kobayashi E. Rat auxiliary liver transplantation without portal vein reconstruction: comparison with the portal vein-arterialized model. *Microsurgery.* 21:189-195,2001.
- 14) Xiu RD, Uchida H, To H, Sugimoto K, Kasahara K, Nagai H, Fujimura A, Kobayashi E. Simplified method of heterotopic rat heart transplantation using the cuff technique: application to sublethal dose protocol of methotrexate on allograft survival. *Microsurgery.* 21:16-21,2001.
- 15) Nakao A, Ogino Y, Tahara K, Uchida H, Kobayashi E. Orthotopic intestinal transplantation using the cuff method in rats: a histopathological evaluation of the anastomosis. *Microsurgery.* 21:12-15,2001.
- 16) Tahara K, Uchida H, Kawarasaki H, Hasizume K, Kobayashi E. Experimental small bowel transplantation using newborn intestine in rats: III. Long-term cryopreservation of rat newborn intestine. *J Pediatr Surg.* 36:602-604,2001.

## 「症例報告」

- 1) Maruyama K, Koizumi T, Ikeda H: Solitary liver abscess caused by methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* in a very low birth weight infant. *Paediatr Int* 42:380-382,2000.
- 2) 黒岩 実、長嶋起久雄、鈴木則夫、高橋 篤、池田 均、土田嘉昭：腹腔鏡補助下に一次的回腸囊肛門管吻合を行った潰瘍性大腸炎の1例。日小外会誌 36:815-819,2000.
- 3) Sakai M, Ikeda H, Suzuki N, Takahashi A, Kuroiwa M, Hirato J, Hatakeyama S, Tsuchida Y. Inflammatory pseudotumor of the liver: Case report and review of the literature. *J Pediatr Surg* 36:663-666,2001.
- 4) Kuroiwa M, Suzuki N, Takahashi A, Ikeda H, Hatakeyama S, Matsuyama S, Tsuchida Y. Life-threatening mediastinal teratoma in a neonate. *Pediatr Surg Int* 17:235-238,2001.
- 5) 設楽利二、清水宏之、鈴木則夫、黒岩 実、土岐文彰、村井秀昭、畠山信逸、平戸純子、三橋紀夫、池田 均、土田嘉昭：腎外性ウィルムス腫瘍の1例。小児がん 38:56-59,2001.
- 6) Maruyama K, Ikeda H, Koizumi T. Hepatoblastoma associated with trisomy 18 syndrome: A case report and a review of the literature. *Paediatr Int* 43:302-305,2001.
- 7) 池田 均、鈴木則夫、黒岩 実、土田嘉昭、小林富男、重田 誠、高橋 篤：遅発型先天性横隔膜ヘルニアに対する鏡視下根治術の経験。日小外会誌 37:821-826,2001.
- 8) Kuroiwa M, Nagashima K, Suzuki N, Takahashi A, Ikeda H, Tsuchida Y. Laparoscopic gastropexy by abdominal wall-lifting procedure for acute gastric volvulus. *Pediatr Endosurg Innov Techn* 5:329-334,2001.

## 「著書・総説」

- 1) Ikeda H, Castle VP: Apoptosis in neuroblastoma and pathways involving Bcl-2 and caspases. In “Neuroblastoma” ed by Brodeur GM, Sawada T, Tsuchida Y, Voute PA. Elsevier Science, Amsterdam, The Netherlands, pp.197-205,2000.
- 2) Tsuchida Y, Ikeda H, Shitara T, Tanimura M: Letter to the editor: Evaluation of the results of neuroblastoma screening at six months of age. Med Pediatr Oncol 34:80-81,2000.
- 3) Tsuchida Y, Ikeda H, Yamashita K, Kaneko M: Letter to the editor: Hereditary persistence of alpha-fetoprotein and its origin. Med Pediatr Oncol 35:506-507,2000.
- 4) 池田 均、土田嘉昭：「B.小児がんの病態と診断、4.腫瘍マーカー」、小児がん、赤塚順一、土田嘉昭、藤本孟男、山崎洋次（編）、医薬ジャーナル社、東京、pp.161-171,2000.
- 5) 池田 均、土田嘉昭：「副腎神経芽腫・後腹膜腫瘍摘除術」、『実践 Urologic Surgery』シリーズ No.5 小児泌尿器科手術、野々村克也、山口 脩、村井 勝、松田公志（編）、メジカルビュー社、東京、pp.10-14,2000.
- 6) 池田 均、鈴木則夫、高橋 篤、黒岩 実、酒井正人、土田嘉昭：小児鼠径ヘルニア対側検索の適応：当院の過去 17 年間の経験から。第 85 回東京小児外科研究会抄録集 pp.13-15,2000.
- 7) 土田嘉昭、池田 均、金子道夫、澤田 淳、家原知子、河 敬世、大沼直躬、麦島秀雄、水田祥代：神経芽腫のグループスタディについて。小児がん 37:18-21,2000.
- 8) 石丸由紀、長島金二、土屋博之、大橋 忍、根本貴史、藤野順子、湊進太郎：小児・思春期の乳腺疾患。小児外科 32:395-399,2000.
- 9) 池田 均、土田嘉昭、金子道夫：進行神経芽腫の新しい治療戦略。日本外科系連合学会雑誌 26:127-131,2001.
- 10) 石丸由紀、藤野順子、湊進太郎、池田 均：小児の熱傷：その特徴と治療。小児外科 33:679-683,2001.
- 11) 内田広夫、田原和典、池田 均：新生仔をドナーとした実験的小腸移植。小児外科 33:967-972,2001.
- 12) 池田 均、黒岩 実、土田嘉昭：血管新生阻害剤による抗血管新生療法。小児外科 33:1193-1197,2001.

## 2. 学会・研究会への参加

### 「口演発表」

- 1) 藤野順子、長島金二、土屋博之、大橋 忍、石丸由紀、根本貴史、湊進太郎：小児熱傷 243 例の検討。第 37 回埼玉県医学会総会 2000.1.30 浦和

- 2) 田中司玄文、加藤良二、池田 均、茂木 晃、遠藤秀紀、野内達人、矢島靖巳、設楽芳範、桑野博行：小児肺疾患における胸腔鏡手術の問題点。第 17 回日本呼吸器外科学会総会、2000.5.25-26、徳島
- 3) 池田 均、黒岩 実、鈴木則夫、高橋 篤、酒井正人、土田嘉昭：小児鼠径ヘルニア対側発症に対する予防的対側検索の適応。第 37 回日本小児外科学会総会、2000.5.30-6.1、福岡
- 4) 石丸由紀、長島金二、土屋博之、大橋 忍、根本貴史、藤野順子、湊進太郎：小児熱傷の検討。第 37 回日本小児外科学会総会、2000.5.30-6.1、福岡
- 5) 根本貴史、土屋博之、長島金二、池田 均：乳糜胸・乳糜腹水の臨床的並びに実験的検討。第 86 回東京小児外科研究会、2000.6.6、東京
- 6) 池田 均、金子道夫、土田嘉昭：パネルディスカッション「小児悪性腫瘍の診断と治療戦略」、進行神経芽腫の治療戦略。第 25 回日本外科系連合学会学術集会、2000.6.24-25、東京
- 7) 丸山憲一、小泉武宣、杉山幹雄、塩島 健、黛 博雄、池田 均：肝芽腫を発症した 18 トリソミーの 1 例 - 自験例および報告例の検討 - 。第 36 回日本新生児学会総会、2000.7.16-18、東京
- 8) 石丸由紀、池田 均、根本貴史、藤野順子、湊進太郎：Wilms 腫瘍に合併した先天性胆道拡張症の 1 例。第 23 回日本膵管胆道合流異常研究会、2000.9.2、徳島
- 9) 村井秀昭、鈴木則夫、黒岩 実、土岐文彰、土田嘉昭、畠山信逸、池田 均：出生前診断で先天性胆道拡張症を疑われた 1 例。第 23 回日本膵管胆道合流異常研究会、2000.9.2、徳島
- 10) 田口博一、大矢雅敏、秋山 博、高野 仁、奥山 隆、赤尾周一、石川 宏、池田 均：絞扼性イレウスを合併した右傍十二指腸ヘルニアの 1 救命例。第 778 回外科集団会、2000.9.30、東京
- 11) 池田 均、鈴木則夫、高橋 篤、黒岩 実、土田嘉昭、小林富男：遅発型先天性横隔膜ヘルニアに対する鏡視下根治術の経験。第 4 回日本小児内視鏡手術研究会、2000.10.6-7、沖縄
- 12) 浜島昭人、鈴木則夫、黒岩 実、村井秀昭、土岐文彰、土田嘉昭、高橋 篤、池田 均：Nuss 法による漏斗胸手術 - 当院における工夫 - 。第 4 回日本小児内視鏡手術研究会、2000.10.6-7、沖縄
- 13) 宮下幸恵、鈴木 愛、小関幸枝、新井直美、山下富子、石丸由紀、池田 均：小児外科手術に患者用パスを導入して。第 11 回日本小児外科 QOL 研究会、2000.10.14、川越
- 14) 湊進太郎、石丸由紀、藤野順子、池田 均：空腸重積症を発症した Peutz-Jeghers 症候

- 群の1例。第35回日本小児外科学会関東甲信越地方会、2000.11.4、宇都宮
- 15) 設楽利二、清水宏之、鈴木則夫、黒岩 実、土岐文彰、村井秀昭、池田 均、土田嘉昭、畠山信逸、平戸純子、三橋紀夫：Pelvic extra-renal Wilms tumor の1例。第16回日本小児がん学会、2000.11.27-28、大宮
  - 16) 藤野順子、大橋 忍、湊進太郎、石丸由紀、池田 均：JPLT91Bを用いて治療したStage IV肝芽腫の1例。第16回日本小児がん学会、2000.11.27-28、大宮
  - 17) 黒岩 実、清水宏之、設楽利二、池田 均、鈴木則夫、土田嘉昭：異なった経過を取った先天性(乳児)血管外被腫の2例。第16回日本小児がん学会、2000.11.27-28、大宮
  - 18) 石丸由紀、藤野順子、湊進太郎、池田 均：Wilms 腫瘍に合併した先天性胆道拡張症の1例。第28回獨協医学会、2000.12.2、獨協医科大学、壬生町
  - 19) 湊進太郎、石丸由紀、藤野順子、池田 均：交通外傷による腎損傷後にウリノーマを発症した1例。第87回東京小児外科研究会、2000.12.5、東京
  - 20) 池田 均：国際分類による神経芽腫の登録(予後調査を含めて)。平成12年度厚生省がん研究助成金班研究「土田班」第2回班会議、2000.12.23、東京
  - 21) 石丸由紀、藤野順子、湊進太郎、池田 均：JPLT2 プロトコールが無効であった小児肝細胞癌の1例。日本小児肝癌スタディグループ(JPLT)研究会2001、2001.1.19、東京
  - 22) 高橋 篤、長嶋起久雄、鈴木 信、志村龍男、桑野博行、黒岩 実、鈴木則夫、土岐文彰、設楽利二、池田 均、土田嘉昭：肝芽腫の治療経験。第2回群馬小児がん研究会、2001.2.14、前橋
  - 23) 黒岩 実、鈴木則夫、池田 均、土田嘉昭：In vivoにおけるEndostatinの腫瘍増殖抑制効果について。第2回群馬小児がん研究会、2001.2.14、前橋
  - 24) 小関幸枝、山下富子、石丸由紀、池田 均：多発外傷により腎瘻、膀胱瘻を造設した患児の在宅管理に関する指導。第15回日本小児ストーマ研究会、2001.2.16、甲府
  - 25) 浜島昭人、鈴木則夫、黒岩 実、村井秀昭、土岐文彰、土田嘉昭、高橋 篤、池田 均：Nuss法による漏斗胸手術 - 当院における工夫 - 。第2回NUSS法手術手技検討会、2001.2.17、東京
  - 26) 藤野順子、土屋貴義、湊進太郎、西田 薫、石丸由紀、池田 均：腸重積、下血により発見された乳児平滑筋肉腫の1例。2000年度関東甲信越地区小児がん登録研究会、2001.2.24、東京
  - 27) 土屋貴義、湊進太郎、藤野順子、石丸由紀、池田 均：腸重積症、下血により発見された乳児平滑筋肉腫の1例。第38回埼玉県医学会総会、2001.2.25、浦和
  - 28) Ikeda H, Suzuki N, Takahashi A, Kuroiwa M, Tsuchida Y. Detection of hepatic oxidative DNA damage in patients with hepatoblastoma and children with non-neoplastic disease. The 34<sup>th</sup>

- Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons, April 4-8,2001, Kyoto
- 29) Tsuchida Y, Ikeda H, Makino S, Choi S-H, Kaneko M. Effects of agents against neuroblastoma. The 34<sup>th</sup> Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons, April 4-8,2001, Kyoto
  - 30) 藤野順子、石丸由紀、湊進太郎、池田 均：小児の腹部および胸部外傷における手術適応と外傷スコアの有用性に関する検討。第 38 回日本小児外科学会総会、2001.6.6-8、東京
  - 31) 浜島昭人、鈴木則夫、黒岩 実、村井秀昭、土岐文彰、土田嘉昭、高橋 篤、池田 均：Nuss 法による漏斗胸手術 - 当院における工夫 - 。第 38 回日本小児外科学会総会、2001.6.6-8、東京
  - 32) 藤野順子、石丸由紀、湊進太郎、西田 薫、池田 均、土屋貴義、桐山裕二、吉野篤範、村井孝安、作田亮一、永井敏郎：滑脱型食道裂孔ヘルニアを合併した重症心身障害児における胃食道逆流現象(GER)の 1 例。第 37 回日本小児放射線学会、2001.6.15-16、千葉
  - 33) 石丸由紀、藤野順子、湊進太郎、池田 均：農薬誤飲による有機リン中毒の 1 小児例。第 15 回日本小児救急医学会、2001.6.22-23、千葉
  - 34) 山本英輝、塩島正之、笹本肇、内田信之、桑野博行：胆嚢原発と考えられた malignant fibrous histiocytoma の一例。日本肝胆膵外科関連会議、2001.6.21-23、仙台
  - 35) 石丸由紀、藤野順子、山本英輝、内田広夫、池田 均：腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した幼児胆石症の 1 例。第 28 回日本小児内視鏡研究会、2001.7.14、東京
  - 36) Tsuchida Y, Ikeda H, Iehara T, Kaneko M, Sawada T, Hata J, Suita S, Nakagawara A, Kawa K, Ohnuma N, Mugishima H, Hamazaki Y, Sugimoto T. Clinical evaluation of the International Neuroblastoma Staging System (INSS) and Pathology Classification (INPC). The 48<sup>th</sup> Annual International Conference of the British Association of Paediatric Surgeons, July 17-20,2001, London
  - 37) Tsuchida Y, Suzuki N, Kuroiwa M, Ikeda H, Hashizume K, Miyauchi J. Histological examination of high-risk neuroblastoma after intensive induction chemotherapy. The 48<sup>th</sup> Annual International Conference of the British Association of Paediatric Surgeons, July 17-20,2001, London
  - 38) 山本英輝、石丸由紀、内田広夫、藤野順子、池田 均：生後 2 ヶ月で発症した横行結腸原発平滑筋肉腫の 1 例。第 3 回群馬小児がん研究会、2001.8.20、前橋
  - 39) 藤野順子、内田広夫、石丸由紀、山本英輝、池田 均、夏井 哲、宿谷俊郎、風見 章、野崎美和子：胃食道逆流現象(GER)における胃シンチグラフィの有用性。第 19 回埼玉核医学同好会、2001.9.8、越谷
  - 40) 山本英輝、石丸由紀、内田広夫、藤野順子、池田 均、夏井 哲、宿谷俊郎、風見 章、

- 野崎美和子：小児泌尿器疾患における腎シンチグラフィーの評価について。第 19 回埼玉核医学同好会、2001.9.8、越谷
- 41) 黒岩 実、池田 均、土田嘉昭、鈴木則夫：ヒトエンドスタチンのヒト神経芽腫ヌードマウス移植株に対する効果。第 60 回日本癌学会総会、2001.9.26-28、横浜
- 42) Ikeda H, Tsuchida Y, Iehara T, Kaneko M, Hata J, Naito H, Iwafuchi M, Ohnuma N, Toyoda Y, Mimaya J, Kondo T, Kawa K, Okada A, Hiyama E, Suita S, Takamatsu H. The International Neuroblastoma Pathology Classification and patient age remain the strongest predictors of prognosis, compared with stage, MYCN, ploidy and 1p-deletion. The 33<sup>rd</sup> Meeting of SIOP. October 10-13,2001, Brisbane, Australia
- 43) Kuroiwa M, Suzuki N, Murai H, Toki F, Ikeda H, Hongo T, Tsuchida Y. Effects of recombinant human endostatin on human neuroblastoma xenograft. The 33<sup>rd</sup> Meeting of SIOP. October 10-13,2001, Brisbane, Australia
- 44) 内田広夫：新生児期に腹満を呈した一症例。第 8 回関東小児外科症例検討会、2001.10.20、東京
- 45) 山本英輝、内田広夫、石丸由紀、藤野順子、池田 均：一期的腹腔鏡下根治術を施行した生後 1 ヶ月のヒルシュスプルング病の 1 例。第 36 回日本小児外科学会関東甲信越地方会、2001.10.27、横浜
- 46) 藤野順子、山本英輝、石丸由紀、内田広夫、池田 均：傍卵管嚢胞捻転の 2 例。第 36 回日本小児外科学会関東甲信越地方会、2001.10.27、横浜
- 47) 石丸由紀、藤野順子、山本英輝、内田広夫、池田 均：胸痛で発症した気管支原性嚢胞 (bronchogenic cyst) の 1 例。第 12 回日本小児呼吸器外科研究会、2001.11.15、さいたま
- 48) 内田広夫、池田 均、田原和典、小林英司：新生仔小腸を用いた実験的小腸移植の可能性。第 17 回日本小児外科学会秋季シンポジウム、2001.11.17、さいたま
- 49) 山本英輝、内田広夫、石丸由紀、藤野順子、池田 均：一期的腹腔鏡下根治術を施行した生後 1 ヶ月のヒルシュスプルング病の 1 例。第 19 回埼玉県外科集談会、2001.12.1、さいたま
- 50) 藤野順子、山本英輝、石丸由紀、内田広夫、池田 均：傍卵管嚢胞捻転の 2 例。第 19 回埼玉県外科集談会、2001.12.1、さいたま
- 51) 山本英輝、石丸由紀、内田広夫、藤野順子、池田 均、吉田森一、森 吉臣：生後 2 ヶ月で発症した横行結腸原発平滑筋肉腫の 1 例。第 17 回日本小児がん学会、2001.12.4-5、東京
- 52) 石丸由紀、藤野順子、山本英輝、内田広夫、池田 均、野崎美和子、堀江 弘、中川原章： - カテニン遺伝子の異常をともなう治療抵抗性小児肝細胞癌の 1 例。第 17 回日

本小児がん学会、2001.12.4-5、東京

- 53) 池田 均、森川康英、草深竹志、野口伸一、土田嘉昭：シンポジウム「骨軟部腫瘍の集学的治療」、日本横紋筋肉腫研究グループ(JRSG)における外科治療ガイドライン。第17回日本小児がん学会、2001.12.4-5、東京
- 54) 森川康英、細井 創、池田 均、原 純一、草深竹志、太田 茂、堀部敬三、正木英一、野口伸一、大平睦郎、横山穰太郎、土田嘉昭：シンポジウム「骨軟部腫瘍の集学的治療」、班会議プロトコール登録症例の追跡調査と横紋筋肉腫に対する新しいグループスタディ(JRSG)の発足。第17回日本小児がん学会、2001.12.4-5、東京
- 55) 内田広夫、池田 均：前眼房へのドナー抗原注入によって得られる全身性免疫抑制の解析。第29回獨協医学会、2001.12.8、獨協医科大学、壬生町
- 56) 石丸由紀、藤野順子、山本英輝、内田広夫、池田 均：IVH 離脱後長期生存している短腸症候群の1例。第89回東京小児外科研究会、2001.12.11、東京
- 57) 内田広夫、田中浩和、佐久間康成、田原和典、池田 均、小林英司：前眼房へのドナー抗原注入によって得られる全身性免疫抑制の解析。第31回日本免疫学会、2001.12.11-13、大阪
- 58) 内田広夫、池田 均、佐久間康成、田原和典、小林英司、田中浩和、川島秀俊：前眼房へのドナー抗原注入によって得られる免疫抑制の機序。第37回日本移植学会、2001.12.15-16、東京
- 59) 土田嘉昭、森川康英、細井 創、原 純一、正木英一、横山良平、池田 均、秦 順一：日本横紋筋肉腫研究グループの診断ならびに治療プロトコールについて。厚生労働省がん研究助成金研究班平成13年度第2回班会議、2001.12.15、東京

## 「症例提示」

- 1) 西田 薫、石丸由紀、藤野順子、湊進太郎、池田 均：大腿原発横紋筋肉腫、第31回小児固形腫瘍の会、2001.2.9、東京
- 2) 山本英輝、石丸由紀、藤野順子、内田広夫、池田 均：1.外傷性後腹膜血腫、2.横行結腸原発平滑筋肉腫、第32回埼玉県小児外科症例検討会、2001.5.22、さいたま
- 3) 山本英輝：卵巣卵黄嚢腫瘍、第29回川口フィルムカンファレンス、2001.7.5、川口
- 4) 藤野順子、内田広夫、山本英輝、石丸由紀、池田 均：会陰部原発横紋筋肉腫、第33回小児固形腫瘍の会、2001.10.26、東京
- 5) 藤野順子、山本英輝、石丸由紀、内田広夫、池田 均：腹腔内膿瘍、第33回埼玉県小児外科症例検討会、2001.11.27、川越
- 6) 内田広夫、山本英輝、藤野順子、石丸由紀、池田 均：1.hypoganglionosis、2.右水腎

症 + 腸回転異常症・中腸軸捻転、第 33 回埼玉県小児外科症例検討会、2001.11.27、川越

### 「座長・当番幹事」

- 1) 池田 均：第 37 回日本小児外科学会総会「良性腫瘍」座長、2000.5.31、福岡
- 2) 池田 均：第 25 回日本外科系連合学会「小児腫瘍一般(1)」座長、2000.6.24、東京
- 3) 池田 均：第 1 回群馬小児がん研究会「一般演題」座長、2000.8.23、前橋
- 4) 石丸由紀：第 35 回日本小児外科学会関東甲信越地方会「腸管(2)」座長、2000.11.4、宇都宮
- 5) 池田 均：第 16 回日本小児がん学会、ワークショップ「新しい治療戦略(2)」座長、2000.11.28、大宮
- 6) 池田 均：平成 12 年度厚生省がん研究助成金班研究「土田班」第 2 回班会議「乳児神経芽腫」座長、2000.12.23、東京
- 7) 池田 均：平成 12 年度がんの子供を守る会研究助成「横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍などの集学的治療に関する研究」第一回研究会、「セッション V」座長、2001.1.27、東京
- 8) 池田 均：第 32 回埼玉県小児外科症例検討会当番幹事、2001.5.22、さいたま
- 9) 池田 均：第 77 回埼玉県小児科医会、第 104 回日本小児科学会埼玉地方会、「一般演題 1,2」座長、2001.6.3、さいたま
- 10) 池田 均：第 38 回日本小児外科学会総会、「新生児 3」座長、2001.6.8、東京
- 11) 池田 均：第 15 回日本小児救急医学会、一般演題「中毒・事故・虐待 2」座長、2001.6.23、千葉
- 12) 池田 均：第 3 回群馬小児がん研究会、「一般演題」座長、2001.8.20、前橋
- 13) 池田 均：第 21 回日本小児外科手術手技研究会、セッション 4「ヒルシュスプルング病」座長、2001.11.15、さいたま
- 14) 池田 均：第 29 回獨協医学会、「一般演題(4)」座長、2001.12.8、獨協医科大学、壬生町

### 3. 研究助成

- 1) 財団法人がんの子供を守る会、平成 12 年度小児がん治療研究助成、研究課題「小児がんを対象とした鏡視下手術の手技確立に関する研究」(代表研究者、池田 均)、助成額 500,000 円
- 2) 厚生省がん研究助成金研究班「新国際分類を用いた神経芽腫の標準的治療法の確立に関

- する研究」(研究協力者、池田 均)、助成額 100,000 円
- 3) 財団法人がんの子供を守る会、平成 13 年度小児がん治療研究助成、「血管新生抑制因子、エンドスタチンの小児悪性固形腫瘍治療への導入に関する研究」(代表研究者、池田 均)、助成額 1,000,000 円
  - 4) 財団法人川野小児医学奨学財団、平成 13 年度研究助成、「血管新生抑制因子、エンドスタチンの小児悪性固形腫瘍治療への導入に関する研究」(代表研究者、池田 均)、助成額 1,970,000 円
  - 5) 獨協医科大学研究助成、「新規生体内生理活性物質 MAY-1 の同定とその臨床応用のための基礎実験」(代表研究者、内田広夫)、助成額 3,000,000 円

#### 4. 学位

該当者なし

## 教育関連の活動

### 1. 学生実習

医学部 5 年生を対象とした Bedside Learning(BSL)を担当した。2001 年度からは BSL を見学型から診療参加型に移行させようという大学の方針に従い、可能な限り講義を省略した。実習は朝 8 時 30 分のミーティングから診療終了時刻までとし、担当医は病歴聴取、診察、検査、手術(術前準備から術後管理)、診療記録の記載などの基本とその実際を指導し、回診、カンファレンス、症例検討会、セミナーなどを通じ小児外科疾患の病態、診断、治療に関する基本的知識とチーム医療の実際を指導した。また、医療人としての品位ある言動やチーム医療の一員としての生命、人格に対する尊厳、自然科学としての医学に対する真摯な探究心などの重要性についても指導を行った。

### 2. 講演・講義

- 1) 池田 均：「小児外科の今とこれから-少子化の時代に求められるその医療-」、平成 12 年度群馬大学第一外科同門会記念講演、2000.6.3、前橋
- 2) 池田 均：「小児がんの臨床と基礎」、第 12 回栃木県小児がん研究会、2000.7.1、獨協医科大学、壬生町
- 3) 池田 均：「肝芽腫の最近の話題について」、越谷病院小児科合同勉強会、2000.7.18、獨協医科大学越谷病院、越谷
- 4) 池田 均：「横紋筋肉腫の現在の治療」、横紋筋肉腫の会、2000.9.9、東京
- 5) 池田 均：「外科医に相談したいこどもの病気」、平成 12 年度獨協医科大学公開講座『開設 10 周年記念講座』、2000.10.14、越谷
- 6) 池田 均：「小児外科あれこれ」、大宮赤十字病院外科セミナー、2001.1.23、大宮
- 7) 池田 均：「新生児の外科的疾患について」、越谷市立病院看護婦研修会、2001.7.12、越谷
- 8) Ikeda H: Low birth weight and hepatoblastoma. The 12<sup>th</sup> Fukuoka International Symposium on Perinatal Medicine, September 1-2,2001, Fukuoka
- 9) 池田 均：「小児悪性固形腫瘍：その発生・分子病態と治療」、群馬大学医学部平成 13 年度実践臨床病態学講義(6 年生)、2001.9.19、前橋

### 3. セミナーの開催

小児外科および関連領域の最新の情報を得ることを目的に、院内外の医師、看護婦、コメディカル、学生を対象に小児外科セミナー(第 5 回より小児外科・周産期外科セミナーと

改名)を開催した。実施セミナーの内容は以下のとおりである。

- 1) 第1回小児外科セミナー  
講師：群馬県立小児医療センター形成外科部長、浜島昭人先生  
演題：「小児の形成外科的疾患：漏斗胸とその最新の治療法を中心に」  
2001.4.10、獨協医科大学越谷病院
- 2) 第2回小児外科セミナー  
講師：群馬大学名誉教授、伊藤 漸先生  
演題：「モチリン・モチライド発見の経緯」  
2001.6.26、獨協医科大学越谷病院
- 3) 第3回小児外科セミナー  
講師：国立小児病院外科、北野良博先生  
演題：「胎児手術の現況とこれから」  
2001.10.2、獨協医科大学越谷病院
- 4) 第4回小児外科セミナー  
講師：獨協医科大学越谷病院小児科、上條 誠先生  
演題：「造血幹細胞移植の基礎と獨協医大越谷病院における造血幹細胞移植の展望」  
2001.10.16、獨協医科大学越谷病院
- 5) 第5回小児外科・周産期外科セミナー  
講師：東京大学医学部小児外科教授、橋都浩平先生  
演題：「外科疾患の出生前診断の現況と胎児治療の可能性」  
2001.11.20、獨協医科大学越谷病院

#### 4. 小児外科・病理カンファレンス

小児外科と病理のカンファレンスを随時、開催した。

- 1) 第1回小児腫瘍カンファレンス、2000.9.25  
検討症例：
  - (1) 6歳、男児、肝腫瘍、肝細胞癌
  - (2) 3歳、男児、左大腿部腫瘍、横紋筋肉腫
- 2) 第2回小児外科・病理カンファレンス、2000.12.11  
検討症例：
  - (1) 11歳、男児、潰瘍性大腸炎
  - (2) 9歳、女児、直腸ポリープ、粘膜逸脱症候群
  - (3) 2ヵ月、女児、横行結腸ポリープ、平滑筋肉腫

3) 第3回小児外科・病理カンファレンス、2001.2.26

検討症例：

- (1) 3歳、男児、縦隔腫瘍、神経節腫、神経線維腫症
- (2) 7歳、男児、Hirschsprung病
- (3) 10歳、男児、右肺嚢胞、気管原性嚢胞
- (4) 13歳、女児、傍卵管嚢胞捻転
- (5) 4歳、男児、腸間膜嚢胞、乳糜管嚢胞

4) 第4回小児外科・病理カンファレンス、2001.9.11

検討症例：

- (1) 14歳、男児、気胸
- (2) 11歳、女児、卵巣卵黄嚢腫瘍
- (3) 11ヵ月、男児、Hirschsprung病(全結腸型)
- (4) 13歳、女児、乳房腫瘍、線維腺腫
- (5) 16歳、女児、肛門周囲腫瘍、横紋筋肉腫

## 5. 抄読会

2000年は8回(抄読論文数18)、2001年は17回(抄読論文数37)の抄読会を行った。小児外科学の最新情報を入手、理解するためにさらなる抄読論文数の増加が課題として残った。

## その他

### 「寄稿」

- 1) 池田 均：教授就任のご挨拶。獨協医科大学学内だより、第 311 号、2000.6 月
- 2) 池田 均：獨協医科大学に赴任して。群馬大学第一外科同門会報、第 28 号、2000.8 月
- 3) 池田 均：獨協医科大学同窓の皆様へ。獨協医科大学同窓会会報、第 21 報、pp.10、2000.10 月
- 4) 池田 均：雑感“小児外科”「肥厚性幽門狭窄症」。埼玉県医師会誌 614:7-8,2001
- 5) 池田 均：朔太郎の夢と平成人の夢。獨協医科大学越谷病院図書室報 17(1):1,2001
- 6) 池田 均：医局紹介・越谷病院小児外科。獨協医大同窓会新報、第 16 号、2001.7.12
- 7) 池田 均：創立 30 周年に寄せて - 小児外科医の立場から - 。越谷市医師会・創立三十周年記念誌、pp.204-205、2001.12.16

### 編集後記

学生時代に夢見た 21 世紀は意外とそれまでの日常の連続であった。しかも、張力の限界の閾値を越えて膨らみ続けた時代は一転、張力に押し戻され縮むことを余儀なくされてしまっている。世の改革はなかなか進まぬうえ、医療の分野における構造改革は甚だ遅れていると言われているが、医療に携わる私たち自身は再膨張への期待と同時にそのための先駆けにならんと今こそ知恵を出す必要があるに違いない。

窓の外のポプラの葉が風に靡くのを眺めながら、輝かしい新世紀を迎えるときに自分は果たして何歳になっているのだろうか、それまで生きていられるだろうかと杞憂した少年時代がついこの間であったような気がして実に懐かしい。もう一度、窓の外を眺めて世の行く末を慮れと、おそらく時代は私たちに語っているのであろう。

この一冊が再膨張への可能性を内にひめたそれとならんことを祈っている。

(池田)

獨協医科大学越谷病院小児外科のあゆみ 2000年-2001年

---

平成14年3月31日発行

編集・発行 獨協医科大学越谷病院小児外科  
〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷2-1-50  
TEL 048-965-1111(内線 2600)

印刷所 (株)松井ピ・テ・オ・印刷  
TEL 028-662-2511(代)

---